

高松市内遺跡発掘調査概報

— 令和4年度国庫補助事業 —

二〇二三年三月
高松市教育委員会

高松市内遺跡発掘調査概報

— 令和4年度国庫補助事業 —

2023年3月

高松市教育委員会

例言

- 1 本書は、高松市教育委員会が令和4年度（一部、令和3年度も含む）に国庫補助事業として実施した高松市内遺跡発掘調査事業の概要報告書である。
- 2 本書には国庫補助事業のうち、高松市内遺跡発掘調査事業として令和3年12月から令和4年11月にかけて実施した試掘調査及び内容確認調査について収録した。なお、令和4年12月以降の実施分については、次年度に報告する予定である。
- 3 調査は、高松市創造都市推進局文化財課文化財専門員 船築 紀子・山元 敏裕・高上 拓・香川 将慶・梶原 慎司・品川 愛・佐藤 容、同会計年度任用職員 中西 克也・上原 ふみ・森原 奈々・磯崎 福子が担当した。また、小比賀家庭園の調査所見については香川県教育委員会生涯学習・文化財課の渡邊 誠氏より資料の提供を受けた。
- 4 本書の執筆は、船築・山元・高上・香川・梶原・品川・佐藤が行い、編集は磯崎が担当した。
- 5 本書の挿図として、高松市都市計画図2千5百分の1を5千分の1、又は3千分の1に改変して使用した（調査地位置図内の網かけは、調査対象地を示し、色の薄い部分は埋蔵文化財包蔵地を示す）。
- 6 本書のうち標高値を示したものは海拔高を表し、座標は国土座標Ⅳ系（世界測地系）に拠った。
- 7 発掘調査で得られたすべての資料は高松市教育委員会にて保管している。

目次

第1章 高松市内遺跡発掘調査事業（令和3年12月～令和4年11月）	1
1. 条里跡	1
2. 条里跡	1
3. 多肥上町平塚地区	2
4. 上林町竹部地区	2
5. 多肥上町松林地区	3
6. 太田上町今原地区	4
7. 小比賀家住宅	4
8. 多肥上町松林地区	9
9. 林町亀の町地区	10
10. 木太町小原地区	11
11. 多肥上町宮尻地区	12
12. 条里跡	12
13. 坂田廃寺・坂田廃寺下層遺跡・坂田廃寺南斎跡	13
14. 松並町橋詰地区	13
15. 川島本町中津地区	14
16. 国分寺町福家石ヶ鼻地区	15
17. 一宮町古美地区	15
18. 国分寺町国分地区	16
19. 国分寺町新居東川西地区	17
20. 円座町道下地区	18
21. 林町平塚地区	18
22. 林町平塚地区	19
23. 白山神社古墳	19
24. 小田池西遺跡	19
25. 条里跡	20
26. 岐王山極楽寺	20
27. 六条町亀の町地区	21
28. 木太町小原地区	21
29. 円座町道下地区	22
30. 三谷城跡	23
31. 仏生山町鶴殿口地区	24
32. 条里跡	24
33. 多肥上町北原地区	25
34. 林町中林地区	25
35. 多肥上町北原地区	26
第2章 重要遺跡確認調査（令和3年12月～令和4年11月）	27
36. 三谷石舟古墳	27
37. 史跡讃岐国分尼寺跡	30
38. 史跡高松城跡及び名勝披雲閣庭園	32



第1図 調査地位位置図

第1章 高松市内遺跡発掘調査事業（令和3年12月～令和4年11月）

1. 条里跡

- 1 所在地 高松市香南町横井
- 2 調査期間 令和3年12月9日～12月14日
- 3 調査担当者 梶原 慎司
- 4 調査の原因 事務所建設工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「条里跡」内に位置する。調査では、4本のトレンチを設定した。調査の結果、現地表面下約20cmの深さで黄橙色シルト層の地山が認められた。地山上面で、遺構・遺物は認められなかった。

6 まとめ

周知の埋蔵文化財包蔵地内ではあるが、中世以前の遺構・遺物は確認できなかった。本確認調査をもって対象地の保護措置は完了した。（梶原）



第2図 調査地位図 (1/5,000)

2. 条里跡

- 1 所在地 高松市香南町由佐
- 2 調査期間 令和3年11月18日・12月20日～21日
- 3 調査担当者 梶原 慎司
- 4 調査の原因 住宅建築工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「条里跡」内に位置する。調査では、3本のトレンチを設定した。調査の結果、現地表面下約30cmの深さで黄橙色シルト層の地山が認められた。地山上面で、近世以降のビットが多数認められたが、中世以前の遺構は認められなかった。

6 まとめ

周知の埋蔵文化財包蔵地内ではあるが、中世以前の遺構は確認できなかった。本確認調査をもって対象地の保護措置は完了した。（梶原）



第3図 調査地位図 (1/5,000)

3. 多肥上町平塚地区

- 1 所在地 高松市多肥上町
- 2 調査期間 令和3年12月22日
- 3 調査担当者 佐藤容・中西克也
- 4 調査の原因 宅地造成・店舗兼事務所新築工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「多肥平塚遺跡」の南側に隣接する。令和3年12月13日付けで事業者より試掘調査依頼が提出され、12月22日に試掘調査を実施した。北側の「多肥平塚遺跡」の調査では、南北方向の旧流路2本と、その上に古代の溝状遺構が検出されている。

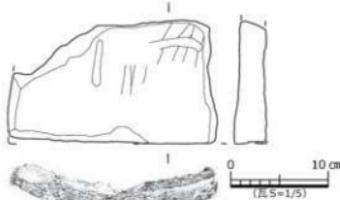
試掘調査では東西方向に1本のトレンチを設定した。基本層序は、表土や床土の下に旧流路に伴うと考えられる礫層や、灰黄褐色及びぶい黄褐色のシルト層が堆積し、これが北側の旧流路の続きに当たると考えられる。トレンチの半ばから西側にかけて更に下で黒褐色シルト層が堆積しており、遺構検出はこの層上面で行った。この層は北側で検出された、流路から溝状遺構上面にかけて堆積している層と考えられ、おそらくこの下に北から続く溝状遺構があると考えられる。また遺物は、ぶい黄褐色シルト層と、黒褐色シルト層で土師器・須恵器片や、中世以前と考えられる瓦片が出土した。

6 まとめ

調査の結果、埋蔵文化財の包蔵状況を確認した。周知の埋蔵文化財包蔵地「多肥平塚遺跡」として追加登録し、今後、開発工事が実施される際は、適切な保護措置が必要と考えられる。(佐藤)



第4図 調査地位置図 (1/5,000)



第5図 遺物実測図 (1/5)

4. 上林町竹部地区

- 1 所在地 高松市上林町
- 2 調査期間 令和4年1月27日～1月28日
- 3 調査担当者 梶原慎司
- 4 調査の原因 事務所建設工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「上林遺跡」に隣接する。調査では、3本のトレンチを設定した。調査の結果、現地表面下約65～85cmの深さで褐色細粒砂層の地山が認められた。地山上面では、埋土の色調と周辺状況から、近世以降と考えられる土坑が数基と、弥生時代と考えられる溝状遺構が1条認められた。

溝状遺構は対象地北側で東西方向に延びる。幅約3.6m、最大深度約50cmである。埋土は上層が黒褐色シルト層、下層が黒褐色細粒砂層で、流水の痕跡が認められる。遺構の位置や断面形態から、対象地の東側に隣接する上林遺跡Ⅷ区SD228に接続する可能性が高い。SD228からは弥生時代後期の遺物が少量出土している。

6 まとめ

調査の結果、埋蔵文化財の包蔵状況を確認した。そのため、対象地の一部を周知の埋蔵文化財包蔵地「上林遺跡」として追加登録した。(梶原)



第6図 調査地位置図 (1/5,000)

5. 多肥上町松林地区

- 1 所在地 高松市多肥上町
- 2 調査期間 令和4年2月17日
- 3 調査担当者 高上 拓
- 4 調査の原因 嵩上げ造成工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「多肥松林遺跡」に隣接する。事業者から試掘調査の依頼を受け、調査を実施した。調査地には造成用土砂と工事用機材が置かれており、これらを避けて調査区を設定した。東・中央・西の3本のトレンチを設定した。

全ての調査区で、埋没した旧河道の痕跡を広く確認した。検出面での土質は暗褐色シルトである(図中 A 層と呼称)。旧河道の基盤層は、東トレンチでは湧水により確認できなかったが、中央トレンチでは黄灰色系統の粘土、西トレンチでは風化礫を多量に含んだ灰褐色の粗砂層である。また、この旧河道埋土を基盤層として、東トレンチではピットが形成される地点を確認した。

旧河道の埋土中からは土器細片が多く確認できたが、弥生土器と考えられる土器片の他、土師器足釜が含まれており、最終埋没は中世まで降ることが推定できる。これを基盤層とする遺構は中世以降の形成を想定できるが、試掘調査では明らかに近世以降の遺物を確認していないため、時期は中世までの範囲で収まる公算が高い。

現地表から遺構面までの深度は、東トレンチで約 80 cm、中央・西トレンチで 30～40 cmと、東側に向かって深い。また、旧河道の埋土も東に向かって厚くなることから、東側が相対的に低地に相当することがわかる。

なお、今回の調査区の北側に隣接する多肥松林遺跡では、今回の調査成果と層序・土質・遺構の形成時期等について類似する成果が確認されており、特に旧河道は連続する可能性が極めて高い。このため、今回の調査範囲は多肥松林遺跡と一体的に把握する必要があるだろう。

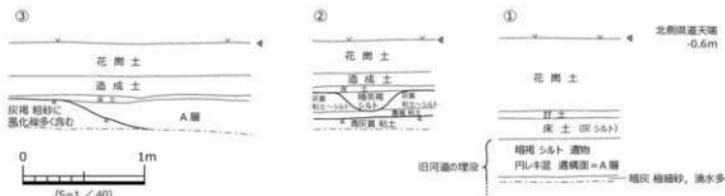
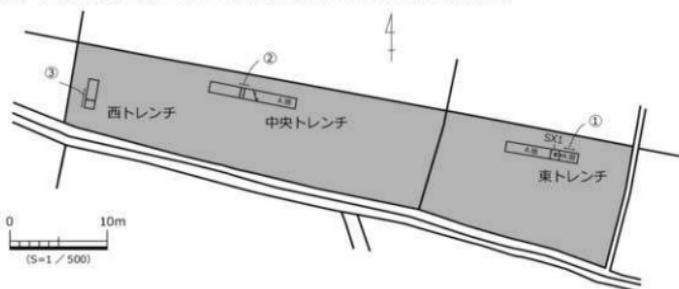
6 まとめ

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地と認められる。包蔵地名称は上記の理由から「多肥松林遺跡」とし、範囲変更が適当である。今後の開発に際しては、適切な保護措置が必要である。(高上)



第7図 調査地位図(1/5,000)

第7図 調査地位図(1/5,000)



第8図 トレンチ平面図・断面図 (1/500・1/40)

6. 太田上町今原地区

- 1 所在地 高松市太田上町
- 2 調査期間 令和4年3月3日～3月4日
- 3 調査担当者 品川 愛
- 4 調査の原因 宅地造成工事
- 5 調査の概要

当該地は、周知の埋蔵文化財包蔵地「太田原高洲遺跡」に隣接する。試掘調査の結果、南側の調査地で地表下約1.1m、北側で地表下約70cmで橙色シルト層を検出した。橙色シルト層は試掘調査地北西側に位置する太田原高洲遺跡の遺構面と同一層と考えられる。橙色シルト層上面ではピット1基を検出した。ピットの埋土は隣接する太田原高洲遺跡の遺構埋土と色調、粒度が類似しており、同一時期の遺構である可能性があるが、遺物が出土しておらず、詳細な時期は不明である。試掘調査地ではこの他に遺構がみられず、太田原高洲遺跡でも東側に行くにつれて遺構が少なくなることから、試掘調査地周辺は遺構密度が低い範囲であるといえる。

6 まとめ

以上のように対象地ではピット1基を検出した。遺構の時期は不明であり、遺構密度も低いことから、対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。(品川)



第9図 調査地位位置図 (1/5,000)

7. 小比賀家住宅

- 1 所在地 高松市御厩町
- 2 調査期間 令和4年3月10日～3月11日
- 3 調査担当者 高上 拓
- 4 調査の原因 池護岸の崩落
- 5 調査の概要

(1) 概要 調査対象地は県指定名勝である『小比賀家築山庭園』である。当該庭園は国指定重要文化財『小比賀家住宅』の敷地内に位置し、主屋の南側から西側にかけて苑池と築山を設けた庭園である。今回、苑池の護岸石組みが一部崩落するなど劣化が認められたため、その修理保全方法を検討するための予備調査としてトレンチ調査を実施した。調査に際しては香川県教委生涯学習・文化財課渡邊誠氏の協力を得た。(高上)

(2) 所見

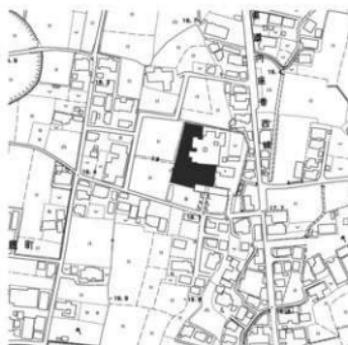
- ・西面調査箇所石組はB類、東面調査箇所はA類である(後述)。
- ・西面は崩落箇所の下半の石組みは健在で、上半のみが崩落しているが、東面は下半の円礫群はあまり動いていない。背面の土が流出することで、上部の大型の石材がバランスを崩し、崩落したと考えられる。
- ・崩落箇所近接地でも石組み背面は空洞化し、石材の摩擦のみで形を保っており、いつ崩落してもおかしくない状況にある。
- ・根石は地山(砂層/砂礫層)の上に据えており、水漏れ防止のための粘土層などは敷設されていない。
- ・池泉に堆積している土は、基本は落ち葉等による腐植土であるが、石組み周辺は盛土起源の砂礫土が堆積している。この堆積土が根石等の押さえの役割を担っている。

(3) 池泉護岸について

・石組み(石積み)の特徴

石の使い方から次の4種類に分類できるが、基本的にはA類とB類の2種類を用いている。いずれも背面構造は不明であるが、盛土の空隙から観察すると基本的には背面は盛土で、栗石はない。ただし、A類は根固めの石材が背面側に面的に敷設されているようである。

A1類：大型石材を使用し、その根固め及び高さ調整として(水中部分)に円礫を多用して積むもの。見た目でも細分できる可能性がある。



第10図 調査地位位置図 (1/5,000)



第 11 図 小比賀家庭園石組分布図

- A2類：大型石材の上に、さらに大型の石材の面が大きくなるように立石状にして、その上に積み上げるもの。A類は、視点場から基本的に見える場所に用いられている。また、築石同士の間隙ができた箇所には、円礫を用いて埋めている。
- B類：小型の円礫（一部角礫含む）を用いて、乱積み（一部谷積み）を行うもの。小さな円礫の間詰め石を用いている。背面側となる直接見えない場所と高台となっている箇所になっている。
- C類：大型石材のみを使用した乱積みのもの
- D類：安山岩の板石を使用して、立石として並べて配置するもの
（B・C類は修理時に使用されている可能性もある。）



石組み A 1類



石組み A 2類



石組み B類



石組み B類



石組み C類



石組み D類

写真1 石組みの分類

(4) 崩落の要因

・松の伐採による環境変化

松の伐採によって日が当たる空間となつてしまい、表層を覆っていたコケ類が繁茂できなくなり、裸地化が進むとともに、雨天時に雨が直接当たる状況となり、土の流出が促進された。

・石組みの構造的 특성

石の背面は土で、石組は盛土にタイル状に貼ったような構造であり、特に小さな円礫を使用するB類の石組みは控えも短く、せん断抵抗が小さいため、元来、構造上脆弱である。さらに、上記の環境変化によって、石組背面の土が吸い出されやすくなり、石組背面が空洞化を促進された。その結果、風雨などの外力を受けた際に崩落。

(5) 新たに確認された崩落箇所

以下の5箇所て新たなき損を確認（崩落は古い）

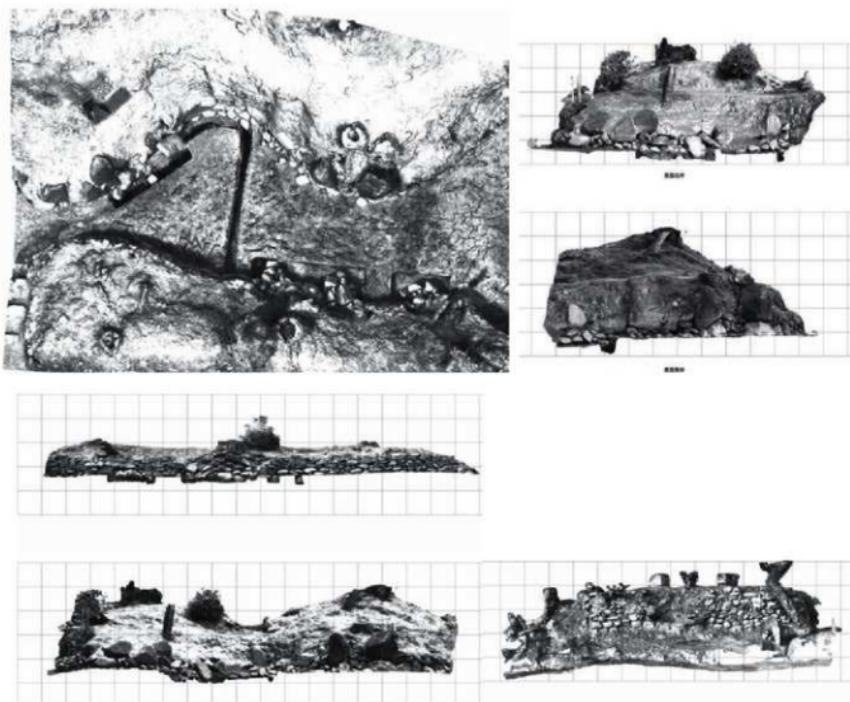
- ①：滝を表現する箇所の横の大型石材が転落している。
- ②：A類の石組みの大型石材が転落している。
- ③④⑤：B類の石組みが崩落している。

6 まとめ

石組護岸の修理方法については、調査成果を踏まえて適切に対処する必要がある。調査結果を踏まえ修理案を以下に記す。

(1) 石組みについて

案1 崩落箇所は、崩落石材を一度撤去し、背面の土の不安定な範囲を取り除く。その後、背面に粒度の異なる



第12図 調査地平面図・立面図 (1/100)



崩落箇所①



崩落箇所②



崩落箇所③



崩落箇所④



崩落箇所⑤

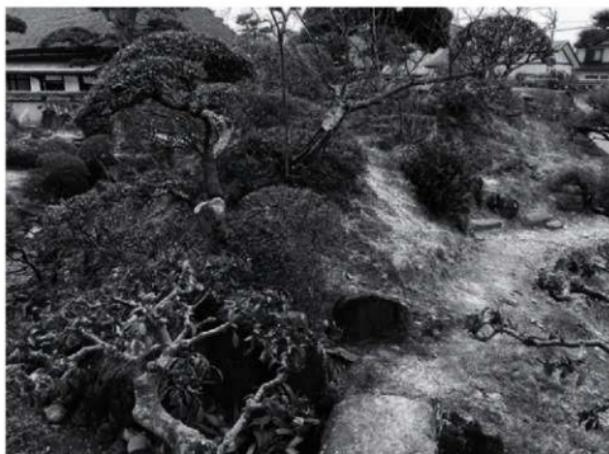
写真2 崩落箇所

る碎石を栗石状に設置し、表面の石組を積み直す。その際に土（表面側と背面側）と栗石層の間に不織布を設置する。

案2 栗石層の代わりにモルタルで施工する。

(2) 法面の表面

土を階段状に切り込み、土（ガンコ真砂等も検討）を再度置き直す。その際に、樹木の植樹やコケ類等の表層の植生を検討する。もしくは、ナジームバッグのような植生土嚢を用いて、法面を造成するか、育樹マット（源五郎ネット等）のような景観上影響の少ないものを用いて、土が安定し、植栽が大きくなるまで、表層を覆うなどの処置を行う。（渡邊）



裸地化

裸地化が進む



石組み背面の空洞化

写真3 き損の状況

8. 多肥上町松林地区

- 1 所在地 高松市多肥上町
- 2 調査期間 令和4年3月17日
- 3 調査担当者 品川 愛
- 4 調査の原因 宅地分譲工事
- 5 調査の概要

当該地は、周知の埋蔵文化財包蔵地「松林遺跡」に隣接する。対象地の基本層序は甘土、1層（黄色細砂まじりシルト、土器片含む）、2層（黒褐色シルト、弥生～古代の土器含む）、3層（橙色細砂まじりシルト、土器片含む）、4層（黄色シルト）である。試掘調査の結果、3層上面からピット、土坑などの遺構を検出した。遺構から遺物は出土していないが、2層が弥生～古代の遺物包含層であることから、3層上面で検出した遺構は古代以前のもつと推測される。

6 まとめ

試掘調査の結果、古代以前の遺構・遺物が確認された。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地「松林遺跡」と一連の遺跡であると考えられることから、「松林遺跡」に追加登録し、開発工事が実施される際には適切な保護措置を取る必要があると考えられる。（品川）



第13図 調査地位図 (1/5,000)

9. 林町亀の町地区

- 1 所在地 高松市林町
- 2 調査期間 令和4年3月14日～3月18日
- 3 調査担当者 高上 拓
- 4 調査の原因 事務所建築工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「空港跡地遺跡(亀の町地区)」に隣接する。事業者から令和4年2月28日付けて試掘調査の依頼を受け、調査を実施した。調査に当たっては11本のトレンチを設定した。

調査地の基本層序と旧地形を概観すると、ほぼ全域で甘土・床土の下に黒色～暗褐色粘土(A層と呼称)が分布する。A層の下層には黄褐+灰褐色粘土が広く分布し、これをB層と呼称した。B層は遺構の基盤層である。B層のさらに下には、特に調査区西半を中心に暗褐色粘土が見られ、これをC層とした。C層下には灰褐色砂層、青灰色円礫混粗砂層といった砂礫層が広がっており、豊富な湧水が認められる。調査区南東側ではC層以下の堆積が認められず、B層から連続する橙色系粘土層が厚く認められるため、B層以下では旧地形が地点により異なる傾向にあることが分かる。B層堆積以前の旧地形として、相対的に南東側が高く、砂礫や土砂の流入により平坦化した可能性を想定しておきたい。

検出した遺構のうち、中世以前に形成されたことを確認した遺構の大半は、調査区内に縦横に走る溝である。溝の埋土はA層と類似する黒色系統の粘土で、一部断割りを行った箇所では砂層と粘土の互層状堆積も確認した。遺構埋土中の遺物としては、僅かに土師質の土器細片を確認した程度であるが、基盤層であるB層直上で古代の須恵器片を確認しており、遺構の埋没はこれに先行するものと考えられる。なお、隣接する空港跡地遺跡(亀の町地区)(高松市教育委員会2016)では、ほぼ同一の層序を確認しており、遺構中から弥生時代後期の土器・木製品が比較的多量に確認されたり、古墳時代～中世にかけての遺物も少量確認されている。

以上をまとめると、調査対象地全域に渡って比較的密に遺構が検出され、少量ながら遺物を伴う。隣接する空港跡地遺跡(亀の町地区)から連続する土地利用の実態を示す遺跡として理解することが妥当であろう。中世以前であることが明確な遺構面としては1面(B層上面)である。

6 まとめ

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地と認められる。包蔵地名称は上記の理由から「空港跡地遺跡」とし、範囲変更が適当である。試掘調査のちに開発工事が計画され、工事に先行して発掘調査を令和4年5～7月に実施した。(高上)



第14図 調査地位図(1/5,000)



写真4 遺構検出状況



写真5 溝断面

10. 木太町小原地区

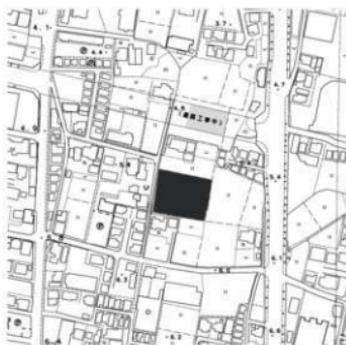
- 1 所在地 高松市木太町
- 2 調査期間 令和4年4月6日～4月7日
- 3 調査担当者 佐藤 容・中西 克也
- 4 調査の原因 造成工事・店舗建築工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「木太小原遺跡」の隣接地である。北側の「木太小原遺跡」では既に発掘調査が実施され、南北に延びる溝と流路が検出されている。

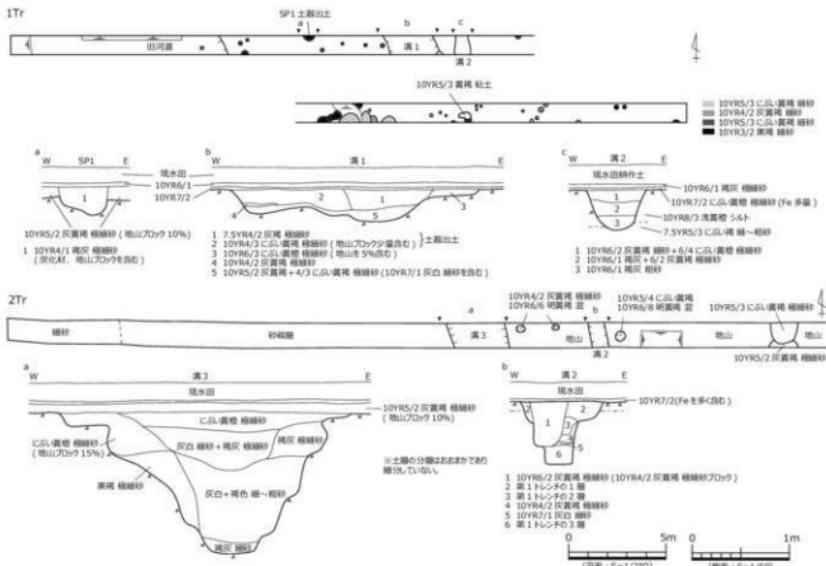
対象地の南側を先行して試掘調査した。基本層序は、上から表土、床土があり、その下に東側で浅黄橙色シルト層（地山）、西側で旧河道による砂質層や礫層が堆積する。遺構面はいずれも3層目上面である。調査地の東側は微高地、西側は旧河道で土地は西に向かって傾斜する。遺構の多くは東側で検出した。調査では南北に各1本東西方向のトレンチを設定し、西側に東西・南北方向のトレンチを1本ずつ設定した。検出遺構は溝とピットで、弥生～古代のピットが北側で多く、西側でも砂質層の上面でわずかに見られた。また南北方向の溝を3条ほど検出した。溝1は弥生土器片や須恵器片などが出土し、位置や規模から北側の発掘調査で見つかった溝に続く可能性が考えられる。溝2は南北で続いて検出した。溝3はV字型の断面で最大幅2m、最大深度1.5mほどの規模があった。南端で検出したが北端では確認できず経路は不明であり、遺物もわずかに土器片が出土しただけで時期も不明である。

6 まとめ

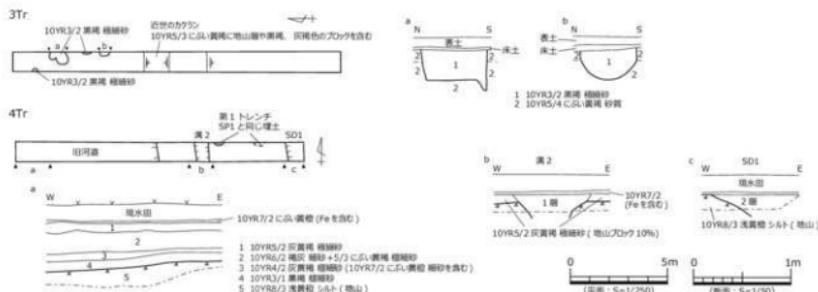
試掘調査の結果、埋蔵文化財の包蔵状況を確認した。周知の埋蔵文化財包蔵地「木太小原遺跡」の隣接地であり、同時期の遺構を検出したことから、同様に「木太小原遺跡」として追加登録した。（佐藤）



第15図 調査地位図 (1/5,000)



第16図 トレンチ平面図・断面図 (1/250 - 1/50)



第 17 図 トレンチ平面図・断面図 (1/250・1/50)

11. 多肥上町宮尻地区

- 1 所在地 高松市多肥上町
- 2 調査期間 令和4年4月11日
- 3 調査担当者 品川 愛
- 4 調査の原因 モデルルーム新築工事
- 5 調査の概要

試掘調査の結果、現地表面から約1mの深さまで造成土が確認され、造成土以下には1層(黒褐色シルト層)、2層(造成土のブロックと礫が混じるシルト層)、3層(黒色シルト層)、4層(灰褐色細砂層)、5層(礫まじり粗粒砂層)が堆積していた。1層からはビニール紐など現代の遺物が出土し、2層は造成土のブロックが混じるため、1、2層については現代に形成された層であると考えられる。3~5層では遺物・遺構ともに確認されなかった。

6 まとめ

試掘調査の結果、中世以前の遺構・遺物は確認されなかった。したがって、周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。(品川)



第 18 図 調査地位位置図 (1/5,000)

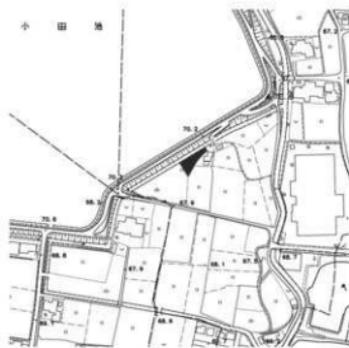
12. 条里跡

- 1 所在地 高松市香南町吉光
- 2 調査期間 令和4年4月15日
- 3 調査担当者 梶原 慎司
- 4 調査の原因 変電設備設置工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「条里跡」内に位置する。調査では、1本のトレンチを設定した。調査の結果、現地表面下約30cmの深さで黄褐色細粒砂まじりシルト層の地山が認められた。地山上面で、遺構・遺物は認められなかった。

6 まとめ

周知の埋蔵文化財包蔵地内ではあるが、中世以前の遺構・遺物は確認できなかった。本確認調査をもって対象地の保護措置は完了した。(梶原)



第 19 図 調査地位位置図 (1/5,000)

13. 坂田廃寺・坂田廃寺下層遺跡・坂田廃寺南薫跡

- 1 所在地 高松市西春日町
- 2 調査期間 令和4年4月28日
- 3 調査担当者 品川 愛
- 4 調査の原因 宅地造成工事
- 5 調査の概要

当該地は浄願寺山の東麓に位置する。基本層序は甘土、I層（灰色粗粒砂層、にぶい黄褐色シルト層等）、II層（マンガンまじり橙色シルト層）、地山（黄色シルト層）であり、II層から古代の遺構・遺物、弥生時代の遺物が検出された。II層上面で検出した遺構はピット、土坑、溝、瓦の集積遺構等である。

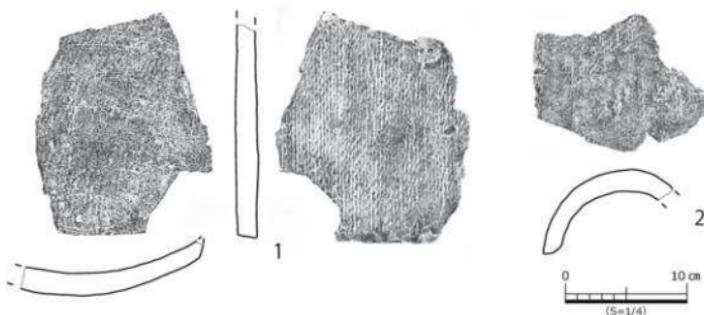
瓦の集積遺構から出土した瓦は、外面に縄目タタキ、内面に布目を残すものが多く確認されており、時期は古代と考えられる。

6 まとめ

確認調査の結果、中世以前の遺構・遺物が確認された。当該地において開発工事等が実施される場合には適切な保護措置が必要であると考えられる。（品川）



第20図 調査地位図 (1/5,000)



第21図 遺物実測図 (1/4)

14. 松並町橋詰地区

- 1 所在地 高松市松並町
- 2 調査期間 令和4年5月17日～5月18日
- 3 調査担当者 香川 将慶
- 4 調査の原因 不動産鑑定
- 5 調査の概要

対象地は、参考地「片山城跡」内に位置している

トレンチを9本設定した。各トレンチとも上層から20～90cmは現代の造成土が堆積しており、後世にかなり改変されたと考えられる。その下面には、調査地南側は旧香東川の河川作用によるものと推測される褐色中粒砂～粗砂等が堆積する。調査区北側は地山と考えられる褐色細砂層が堆積する。

今回の調査では遺構・遺物は確認できなかった。

6 まとめ

当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。（香川）



第22図 調査地位図 (1/5,000)

15. 川島本町中津地区

- 1 所在地 高松市川島本町
- 2 調査期間 令和4年5月24日
- 3 調査担当者 香川 将慶
- 4 調査の原因 総合センター建設工事及び道路改良工事
- 5 調査の概要

対象地は、周知の埋蔵文化財包蔵地「川島中津遺跡」に隣接する。現在使用している既存建物や地下の埋設物の位置関係について所々のトレンチのみ調査を実施した。

層位や遺構の年代は対象範囲に隣接した場所で令和3年度に東部南総合センター（仮称）建設工事に伴い実施した本調査（整理中）の成果がある。本調査では造成土や表土以下に近世の包含層である青灰色細砂や灰褐色細砂が堆積し、その下面に中世の包含層（にぶい黄褐色細砂）を確認できる。中世の堆積層以下に古代の遺構面である黒褐色細砂～中粒砂（第1遺構面）、その下面に検出地点によって堆積層が異なるが、弥生時代の遺構面である黒褐色シルトや灰褐色中粒砂～粗砂等（第2遺構面）を確認できる。また、古代の遺構埋土は褐色系の細砂となるものが多い。

今回の調査地でも造成土以下に近世の青灰色細砂（第2層）と灰褐色細砂（第3層）、中世のにぶい黄褐色細砂（第4層）を確認した。その下面に黒褐色シルト～極細砂（第6層・現地表面から約65cm）を確認し、遺構面になる。

今回の試掘調査は現在の施設利用等の影響から狭小な範囲でしか調査が実施できなかったが、令和3年度に隣接地で実施した本調査で検出した遺構面が対象範囲に連続していることが明らかになった。検出した遺構から遺物は出土していないが、遺構埋土等の特徴から古代と考えられる。また本対象地に延伸すると推測される中世と弥生時代の溝2条を隣接地で実施した立会調査で確認していることから中世以前の遺構密度が一定以上になることが推測される。

6 まとめ

今回の試掘調査の結果、隣接する周知の埋蔵文化財包蔵地「川島中津遺跡」と同時期と考えられる遺構を検出し連続性がうかがえる。よって、周知の埋蔵文化財包蔵地「川島中津遺跡」として追加登録する必要がある。今後、土木工事等の開発工事が実施される際は、適切な保護措置が必要と考えられる。（香川）



第23図 調査地位箇所 (1/5,000)



写真6 SD1断面



写真7 SD1 検出状況

16. 国分寺町福家石ヶ鼻地区

- 1 所在地 高松市国分寺町福家
- 2 調査期間 令和4年6月15日～6月16日
- 3 調査担当者 香川 将慶・森原 奈々
- 4 調査の原因 駐車場整備工事
- 5 調査の概要

対象地は、周知の埋蔵文化財包蔵地「石鼻植松の塚」に隣接する。

今回の試掘調査ではトレンチを5本設定した。基本土層は現代の造成土以下に近世の包含層（粗砂まじり細砂）が堆積している。現地表面から約80cmで古墳時代の須恵器や土師器を少量含む遺物包含層を部分的に確認したが、遺構に起因するものではないと考えられる。地山と考えられる層位は黒色粗砂まじり極細砂である。

1・3トレンチは現地表面から約2mで地山となるオリブ褐色砂礫まじり粘土層を確認したが、そこまで及んだ現代の造成により中世以前の遺構・遺物は確認できなかった。1トレンチのSD 1は近世の瓦類が出土したが、ビニール片が出土したことから、現代と考えられる。石組は道等に伴う石組と推測され、近世の瓦類が出土した。

今回の調査では中世以前の遺構は確認できなかった。

6 まとめ

当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。（香川）



第24図 調査地位図(1/5,000)

17. 一宮町古美地区

- 1 所在地 高松市一宮町
- 2 調査期間 令和4年6月29日
- 3 調査担当者 香川 将慶・森原 奈々
- 4 調査の原因 不動産鑑定
- 5 調査の概要

対象地は、周知の埋蔵文化財包蔵地「旧南海道跡」及び隣接地に位置している。

今回の調査では2本のトレンチを設定した。現地表面から約60cmは造成土で、その下層に上面が削平され確定できないが、近世の整地層と推測される層を確認した。褐色極細砂が地山で古代の遺構が確認できる。

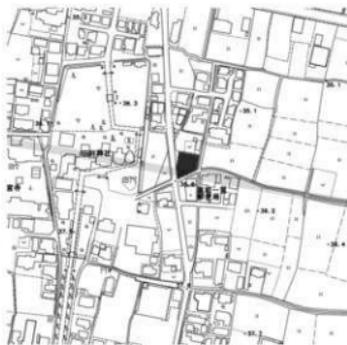
1トレンチは溝1条を確認したが、陶磁器等が出土し、近世の遺構と考えられる。

2トレンチは溝2条を確認した。SD 3は、近世の整地層と推測される層が埋土となっているため同時期と考えられる。SD 2はSD 3に切られ、西肩を検出てきていない。幅は約1.5mで深さ約30cmである。埋土は第2～4層である。埋土から須恵器や土師器が出土し、古代と考えられる。

今回の調査で古代の溝を検出した。旧南海道跡と並行して溝を検出していることや遺構の年代が古代であることから古代南海道と関連のある遺構の可能性が高い。また、周辺に古代南海道に関する遺構が広がる可能性がある。

6 まとめ

今回の試掘・確認調査の結果、埋蔵文化財の包蔵状況を確認した。対象地の大半は周知の埋蔵文化財包蔵地「旧南海道跡」の隣接地である。今回の調査で古代南海道に関する遺構が検出され、周辺にも関連する遺構が広がると考えられることから「旧南海道跡」として追加登録し、今後、土木工事等の開発工事が実施される際は、適切な保護措置が必要と考えられる。（香川）



第25図 調査地位図(1/5,000)

18. 国分寺町国分地区

- 1 所在地 高松市国分寺町国分
- 2 調査期間 令和4年6月23日～7月1日
- 3 調査担当者 品川 愛・香川 将慶
- 4 調査の原因 宅地造成工事・住宅建設工事
- 5 調査の概要

当該地は特別史跡「讃岐国分寺跡」北側に隣接する。基本層序は甘土、床土、灰色極細砂層、灰白色粗砂まじりシルト層（遺構面）、礫層、地山である。灰色極細砂層は調査区の南半のみで確認した。遺構はⅡ層上面及び礫層上面で確認された。遺構面の深さは調査区北側で約20cm、調査区南側で約40cmであり、北から南に低く傾斜する。

Ⅱ層上面及び礫層上面で溝1条、ピット3基、性格不明遺構3基を検出した。SX1～3、SP1、SD1からは平瓦を中心とした瓦類が出土した。今回の調査で出土した平瓦は、これまで実施された発掘調査（高松市教委2020『特別史跡讃岐国分寺跡Ⅰ－遺物編②』）で出土した古代の平瓦と製作技法や叩き具等の痕跡の特徴が近似することから古代瓦と考えられる。

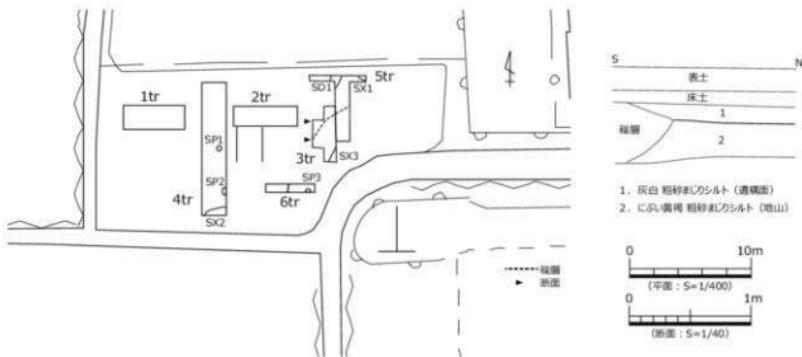
3・5・6トレンチでは、北東側から南西側へと大きく曲がる礫層を検出した。礫層の平面での広がりから、国分寺跡の北西隅の大溝である可能性があると考え、礫層の断ち割り調査を実施した。その結果、礫層は古代の遺構面の下層に位置することが判明し、断ち割り調査を行った範囲では遺物は確認されなかった。これまでの調査で讃岐国分寺跡の遺構面は1面であることも考慮すると礫層は地山堆積層の一部である可能性がある。また、礫層の肩部分は想定される築地塀の位置から約8～10mに位置しており、これまでの発掘調査で確認された大溝の幅（約3～5m）よりも広いことから、築地塀外側の大溝の可能性は低いと考えられる。ただし、平面、断面において、層の境が明瞭に確認できることから何らかの遺構の可能性も残る。礫層は調査範囲外まで広がるため、今回の調査では地山か遺構かの判断ができないが、今後周辺の調査が行われた際には、礫層の性格について改めて評価する必要がある。

6 まとめ

以上のように、対象地では古代の遺構・遺物が確認された。出土した瓦や遺構の埋土の特徴から、讃岐国分寺跡と関連する遺跡である可能性が高いと考えられる。従って、当該地を周知の埋蔵文化財包蔵地「讃岐国分寺跡」として追加登録し、今後当該地で開発が行われる際は適切な保護措置が必要であると考えられる。（品川）



第26図 調査地位置図 (1/5,000)



第27図 トレンチ平面図・断面図 (1/400・1/40)

19. 国分寺町新居東川西地区

- 1 所在地 高松市国分寺町新居
- 2 調査期間 令和4年7月25日～7月26日
- 3 調査担当者 香川 将慶・森原 奈々
- 4 調査の原因 宅地造成工事
- 5 調査の概要

対象地は、周知の埋蔵文化財包蔵地「史跡讃岐国分尼寺跡」に隣接する。

今回の調査ではトレンチを7本設定した。基本土層は表土、オリブ褐色中粒砂～細砂層以下に暗灰黄細礫まじり細砂層を確認している。この層からは古代瓦や土師質土器、須恵器、白磁と考えられる土器類を僅かに含んでいる。層位に若干のバリエーションがあるが、現地表面から約50cmの堆積層からは古代の遺物が出土し、この上面で中世の遺構が形成されている。また、黄灰色砂礫まじり中粒砂層（第5層）は遺物を含まない地山と考えられ、周辺の調査成果（高松市教委2017史跡讃岐国分尼寺跡）を考慮すると11次調査第6層等と類似した堆積と考えられ、古代の遺構面と推測される。

中世の遺構面は現地表面から約50cm程度で検出でき、古代の遺構面は現地表面から60～100cmで確認できる。1は中世の遺構面と古代の遺構面の間にある堆積層から出土した軒丸瓦（KB103）である。技法は一本づくりである。

1・2トレンチから性格不明遺構を検出しており、位置関係や断面の観察から同一遺構であると考えられる。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

2・3トレンチから2基のピットを検出した。SP1は直径20cm、深さ約20cmで、SP2は直径25cm、深さ約20cmである。各ピットから土師質土器や須恵器が出土しているが、遺構面の形成時期を考慮すると中世と考えられる。SP1から出土した2は土師質土器の杯である。

調査の結果、中世のピット2基のみであるため、遺構密度がかなり希薄であると考えられる。また、古代の遺構面では遺構は検出できなかった。

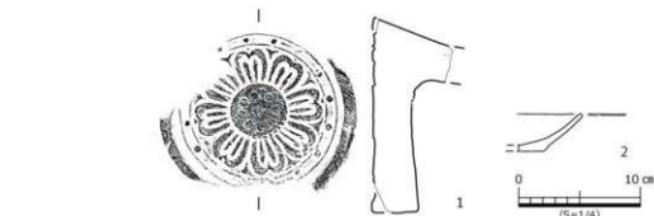
今回の調査結果では周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められなかったが、出土遺物の多くは古代瓦等の讃岐国分尼寺跡に関連するものである。引き続き周辺の開発等に応じて包蔵地の有無を確認するとともに、本調査地も今後の調査研究の成果等によっては包蔵地として再検討する必要があると考えられる。

6 まとめ

当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。（香川）



第28図 調査地位図(1/5,000)



第29図 遺物実測図(1/4)

20. 円座町道下地区

- 1 所在地 高松市円座町
- 2 調査期間 令和4年8月1日
- 3 調査担当者 梶原 慎司
- 4 調査の原因 宅地造成工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「旧南海道跡」内に位置する。調査では、2本のトレンチを設定した。調査の結果、現地表面下約20～30cmの深さで黄橙～灰白色シルト層の地山が認められた。地山上面では、中世以前の可能性がある溝状遺構を1条検出した。

溝状遺構は対象地南端で東西方向に延びる。幅約2m以上、最大深度約25cmである。埋土は褐灰色シルト層である。旧南海道跡の範囲内であるため、旧南海道跡を構成する遺構の可能性が想定される。

6 まとめ

調査の結果、埋蔵文化財の包蔵状況を確認した。そのため、対象地の一部を周知の埋蔵文化財包蔵地「旧南海道跡」として追加登録した。(梶原)



第30図 調査地位置図 (1/5,000)

21. 林町平塚地区

- 1 所在地 高松市林町
- 2 調査期間 令和4年8月4日
- 3 調査担当者 高上 拓
- 4 調査の原因 貸店舗新築工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、「弘福寺領讃岐国山田郡田岡比定地」の参考地として把握されている。事業者から令和4年7月29日付けで試掘調査の依頼を受け、調査を実施した。対象地は概ね中央に南北方向の重力式擁壁が所在し、東西に二分されている。西半は東半に比べて現地表面が50cm程度高い。西半に1～3トレンチ、東半に4～6トレンチを設定した。

調査地の基本層序を概観すると、西半では耕作土下に灰褐色～黒色シルトが堆積し、その下層に地山と判断した明黄褐色の堅牢な粘土が確認される。東半では灰褐色～黒色シルトがほとんど認められず、耕作土直下が地山となる。また、全域で近現代の攪乱が多数確認された。

地山想定層上面で遺構検出を試みたが、遺構とは特定したい不定形の落ち込みを1基確認したのみで、遺物は皆無であった。

6 まとめ

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。(高上)



第31図 調査地位置図 (1/5,000)

22. 林町平塚地区

- 1 所在地 高松市林町
- 2 調査期間 令和4年8月5日
- 3 調査担当者 高上 拓
- 4 調査の原因 貸店舗新築工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、「弘福寺領讃岐国山田郡田岡比定地」の参考地として把握されている。事業者から令和4年7月28日付けて試掘調査の依頼を受け、調査を実施した。調査に当たっては4本のトレンチを設定した。調査地全体で、耕作土下の花崗土直下で地山と考えられる明黄褐色粘土を検出した。また、各所で近現代の擾乱は認められたものの、遺構・遺物は皆無であった。

6 まとめ

対象地は埋蔵文化財包蔵地とは認められない。(高上)



第32図 調査地位置図 (1/5,000)

23. 白山神社古墳

- 1 所在地 高松市木太町
- 2 調査期間 令和4年8月8日
- 3 調査担当者 松築 紀子
- 4 調査の原因 宅地造成工事
- 5 調査の概要

対象地は、周知の埋蔵文化財包蔵地「白山神社古墳」に該当する。事業者から令和4年8月4日付けて確認調査の依頼を受け、調査を実施した。

対象地の基本層序は、I層(耕作土)、II層(造成土)、III層(暗灰黄色シルトまじり細砂)IV層(地山)である。III層からは須恵器片が出土し、また近世以降の遺物を含まなかったことから、古墳時代以降の堆積層と考えられる。III層及びIV層上面で遺構検出を行ったが、調査範囲が狭小であったため、古墳に関する遺構やその他の遺構は確認できなかった。

6 まとめ

今回の確認調査で本事業地の保護措置は完了した。(松築)



第33図 調査地位置図 (1/5,000)

24. 小田池西遺跡

- 1 所在地 高松市香南町池内
- 2 調査期間 令和4年8月8日
- 3 調査担当者 香川 将慶
- 4 調査の原因 個人住宅建設工事
- 5 調査の概要

対象地は、周知の埋蔵文化財包蔵地「小田池西遺跡」内に位置する。

今回の調査は3本のトレンチを設定した。基本土層はいずれのトレンチも表土20cm以下に黄褐色極細砂の地山を確認した。

調査の結果、いずれのトレンチも遺構・遺物は確認できなかった。

6 まとめ

今回の確認調査で遺構・遺物は確認できなかったため、本事業地の保護措置は完了した。(香川)



第34図 調査地位置図 (1/5,000)

25. 条里跡

- 1 所在地 高松市香南町由佐
- 2 調査期間 令和4年9月7日
- 3 調査担当者 梶原 慎司
- 4 調査の原因 住宅新築工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「条里跡」内に位置する。調査では、2本のトレンチを設定した。調査の結果、現地表面下約60cmの深さで黄褐色シルト層の地山が認められた。地山上面で、遺構・遺物は認められなかった。

6 まとめ

周知の埋蔵文化財包蔵地内ではあるが、中世以前の遺構は確認できなかった。本確認調査をもって対象地の保護措置は完了した。(梶原)



第35図 調査地位図(1/5,000)

26. 岐王山極楽寺

- 1 所在地 高松市香川町東谷
- 2 調査期間 令和4年9月8日
- 3 調査担当者 香川 将慶・森原 奈々
- 4 調査の原因 携帯電話無線基地局新築工事
- 5 調査の概要

対象地は、周知の埋蔵文化財包蔵地「岐王山極楽寺」内に位置する。

今回の確認調査は1本のトレンチを設定した。造成土以下で黄褐色粗砂の地山を検出した。

調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。周辺の地山の露出状況を考慮すると調査地は削平を受けていると考えられる。

6 まとめ

今回の確認調査で遺構・遺物は確認できなかったため、本事業地の保護措置は完了した。(香川)



第36図 調査地位図(1/5,000)

27. 六条町亀の町地区

- 1 所在地 高松市六条町
- 2 調査期間 令和4年9月8日～9月9日
- 3 調査担当者 高上拓
- 4 調査の原因 宅地造成工事
- 5 調査の概要

対象地は南側が周知の埋蔵文化財包蔵地「六条下所遺跡」に隣接する。事業者から試掘調査の依頼を受け、調査を実施した。調査に当たっては7本のトレンチを設定した。対象地の地形は概略北から南に向かって下る。これは巨視的に見た高松平野の起伏とは逆方向であり、現地の小地形によるものと考えられる。なお現地南側には舗装されているが東西方向の水路が認められ、旧地形を踏襲する可能性が考えられる。こうした状況を総合すると、南側に存在した低地（旧水路や河川の可能性あり）に向かって傾斜する地形と考えられ、事実調査中も南側を中心に湧水が著しかった。こうした地勢から、南側に隣接する六条下所遺跡との連続性については慎重に検討する必要があると判断した。

基本層序としては、甘土・床土の下部に明黄褐色粘土が広く分布し、地山でかつ遺構面となっている。また、部分的に礫層が高く上がる地点も散見される。検出した遺構は非常に希薄で、土坑1基、小規模な溝1条を確認したのみである。埋土は暗褐色系シルトであり、隣接する遺跡の遺構埋土の状況と類似するものの、出土遺物は皆無であり時期を特定することができない。

以上の状況から、隣接する六条下所遺跡と類似する遺構が確認できるものの、極めて希薄でかつ遺物が皆無であり形成時期を特定することができない。このため、当該地を周知の埋蔵文化財包蔵地とするに足る調査成果ではないと判断する。

6 まとめ

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。（高上）



第37図 調査地位図(1/5,000)

28. 木太町小原地区

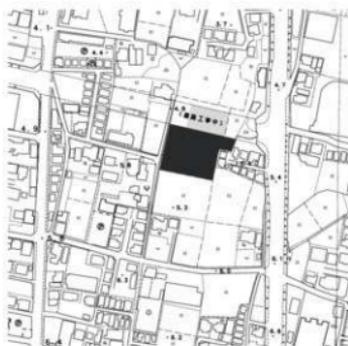
- 1 所在地 高松市木太町
- 2 調査期間 令和4年9月13日
- 3 調査担当者 佐藤容・磯崎福子
- 4 調査の原因 宅地造成工事・店舗建築工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「木太小原遺跡」に隣接し、令和4年9月6、7日に南側を、同年9月13日に北側を調査した。

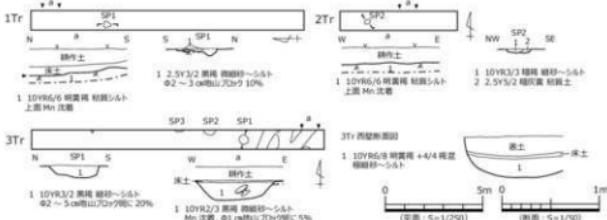
基本層序は①表土、②床土、③明黄褐色粘質シルト（地山）で、調査地西端では③明黄褐色極細砂シルトが堆積する。トレンチは東側で南北・東西方向に1本ずつ、西側で東西方向に1本設定した。東側では、弥生～古代と考えられるビツをわずかに検出した。西側では南北方向の溝を確認し、埋土からは須恵器の高杯が出土した。この溝は北側、南側の調査でも確認されており、南北に一貫して続くと考えられる。

6 まとめ

調査の結果、埋蔵文化財の包蔵状況を確認した。そのため「木太小原遺跡」として追加登録した。（佐藤）



第38図 調査地位図(1/5,000)



第39図 トレンチ平面図・断面図(1/250・1/50)

29. 円座町道下地区

- 1 所在地 高松市円座町
- 2 調査期間 令和4年9月14日～9月16日
- 3 調査担当者 香川 将慶・森原 奈々
- 4 調査の原因 分譲住宅造成及び商業施設建設工事
- 5 調査の概要

対象地は、参考地「中井城跡」内に位置している。

1) 本のトレンチを設置した。基本土層は⑦断面をみると耕作土、床土以下にぶい黄色極細砂の地山が確認でき、この上面で遺構が検出できる。遺構は今回調査した範囲の一部で確認でき、遺構面は現地表面から約30cmである。

1) トレンチは調査区東側で平安時代から中世にかけての遺物を含む包含層を確認している。1・2は包含層中から出土した。1は古代の丸瓦である。2は須恵器の杯身である。遺物包含層と同一埋土で溝状の落ちを確認している。これは4・6・9・10トレンチで検出した溝と主軸方向が同一で埋土が近似していることから溝の落ちと考えられる。遺物包含層の年代を考慮すると年代は平安時代から中世の溝と考えられる。

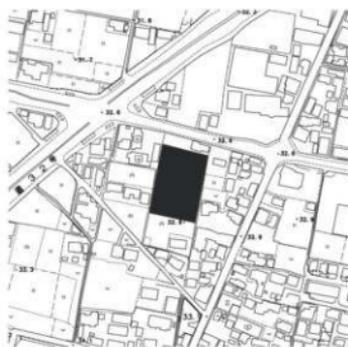
また、対象地西側に設置した2・3・8・7・11トレンチでも遺構・遺物は確認できなかった。

9トレンチでは溝2条、ビット4基、土坑1基、確定はできないが井戸1基を確認した。SK1は陶磁器が出土し、近世と考えられる。SEは幅約2mである。円形になると考えられ、掘削中に湧き水が著しいことから井戸跡と推測される。3はSEから出土したほうくである。近世の土師質土器や陶磁器等が出土し、近世の遺構と考えられる。ビットは、SP1～4が柱筋を揃え均等な間隔で配置されていることから柵列又は掘立柱建物になる可能性がある。井戸の位置にビットが確認されないことから井戸と考えられる遺構よりも古相と考えられる。

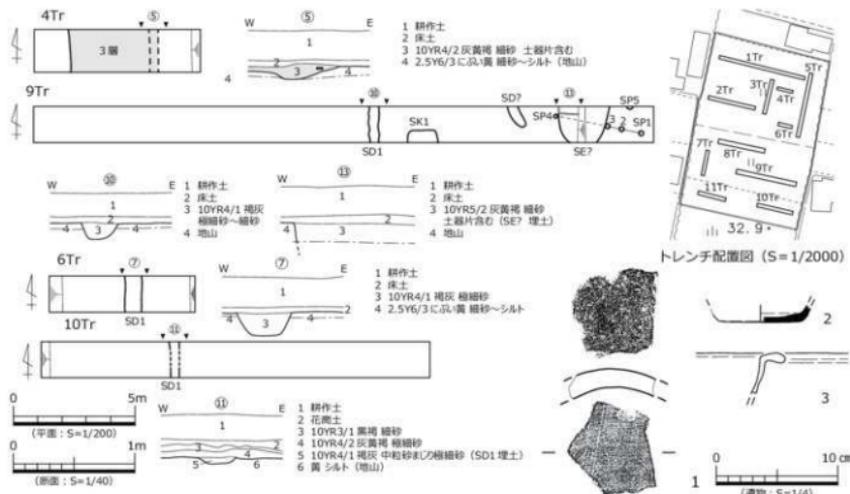
今回の試掘調査では現地表面から約30cmで平安時代から中世の遺構と近世の遺構を確認した。遺構・遺物を確認した範囲は調査地東側に偏る。

6 まとめ

今回の試掘調査の結果、一部の範囲で埋蔵文化財の包蔵状況を確認した。周知の埋蔵文化財包蔵地「道下遺跡」として新規登録し、今後、土木工事等の開発工事が実施される際は、適切な保護措置が必要と考えられる。(香川)



第40図 調査地位置図 (1/5,000)



第41図 トレンチ配置図・平面図・断面図 (1/2000・1/200・1/40)、遺物実測図 (1/4)

30. 三谷城跡

- 1 所在地 高松市三谷町
- 2 調査期間 令和4年9月21日～9月22日
- 3 調査担当者 高上 拓
- 4 調査の原因 市道拡幅工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「三谷城跡」内に位置する。調査対象は道路拡幅予定地とし、6か所のトレンチを設定して人力で掘削した。対象地の地勢を見ると、細い谷が縦横に巡る丘陵地帯の一角に位置し、中でも周囲に比べて一段高い場所に当たる。周辺の田畑との境界には近在で産出する軟質石材製の石垣が四周に巡り、段差を成している。なお、この石垣は間知積みになっており、近代以降の所産と考えられる。土塁や堀といった城郭に伴う明確な遺構の痕跡は地表の観察では確認することができない。

南北に細長い調査対象地に6か所のトレンチを設けた。このうち、4・5トレンチでは表土直下が地山となっている。一方、1～3・6トレンチでは、地山の上に客土が厚く認められる（B層）。客土の土質は比較的均質だが、ブロック状に地山を含んでおり、また遺物も含むことから人為的な造土の可能性が高いと考えられる。地山は現地地形に沿って南に向かって下降しており、この地形を克服し平坦面を造成するための盛土と想定することができる。B層中から近世以降の陶磁器や瓦を伴い、かつ間知積みの石垣の裏込めとなっていることから、近代以降で石垣の構築に伴う造成と考えられる。また、地山上では1トレンチで遺構の可能性のある落ち込みを確認したが、土師質土器の細片を伴うのみで時期は不明である。

以上をまとめると、今回の調査範囲では明確な中世城館に伴う遺構・遺物は確認できなかった。現地の石垣で圍繞された区画の造成は近代以降に実施されたことがうかがえる。

6 まとめ

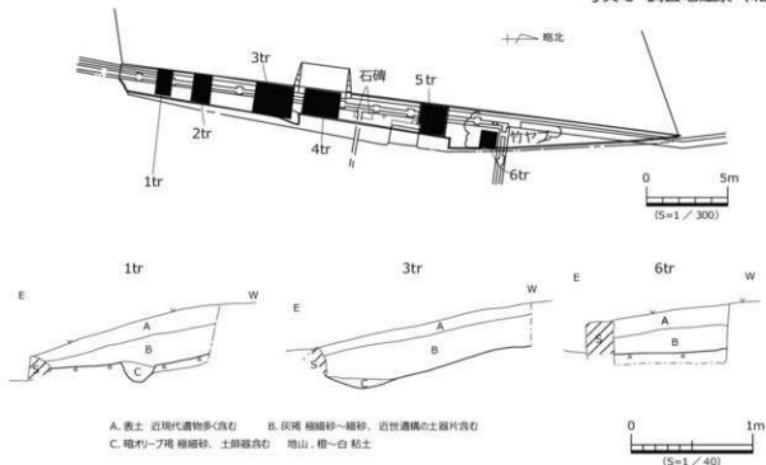
対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地である。今後の事業実施に伴って必要な保護措置は完了した。（高上）



第42図 調査地位置図 (1/5,000)



写真8 調査地遠景（北から）



第43図 トレンチ配置図・断面図 (1/300・1/40)

31. 仏生山町鶴殿口地区

- 1 所在地 高松市仏生山町
- 2 調査期間 令和4年9月29日～9月30日
- 3 調査担当者 品川 愛・中西 克也
- 4 調査の原因 マンション建設工事
- 5 調査の概要

当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地「萩前・一本木遺跡」に隣接する。対象地内の基本層序は造成土、Ⅰ層（黄灰～灰白色シルト層（近世以降の堆積層））、Ⅱ層（褐色シルト層）、Ⅲ層（黄色シルト層（地山））であり、Ⅱ層上面、Ⅲ層上面で遺構を検出した。

Ⅱ層上面では、地点によって微妙に土質の異なる黒褐色シルト層が確認された。周辺の調査状況を踏まえれば、黒褐色シルト層は竪穴建物の埋土である可能性が高く、複数の竪穴建物が平面上で切りあう状況が想定される。黒褐色シルト層中では焼土が確認される箇所があり、竪穴建物のかまどに伴うものと考えられる。

Ⅲ層上面ではピットを検出した。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

6 まとめ

試掘調査の結果、対象地全域で古代以前の遺構・遺物が確認された。検出された遺構は周辺の遺跡と関連するものであることから、周知の埋蔵文化財包蔵地「萩前・一本木遺跡」の範囲を変更し、今後当該地において開発行為が行われる際には適切な保護措置が必要であると考えられる。（品川）



第44図 調査地位置図 (1/5,000)

32. 条里跡

- 1 所在地 高松市香南町由佐
- 2 調査期間 令和4年10月3日
- 3 調査担当者 高上 拓
- 4 調査の原因 露天駐車場整備工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「条里跡」内に位置する。事業者から依頼を受け、露天駐車場整備予定地を対象に確認調査を実施した。調査に当たっては2本のトレンチを設定した。

調査対象地全域で現地表面下15～30cmの深度で地山を確認した。周辺の調査ではこの地山が遺構面となる事例が確認されているが、本調査区においては遺構・遺物ともに確認されなかった。

6 まとめ

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地である。今後の事業実施に伴って必要な保護措置は完了した。（高上）



第45図 調査地位置図 (1/5,000)

33. 多肥上町北原地区

- 1 所在地 高松市多肥上町
- 2 調査期間 令和4年10月25日
- 3 調査担当者 山元 敏裕
- 4 調査の原因 新駅整備事業
- 5 調査の概要

当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地「多肥北原西遺跡」に隣接する。調査では3本のトレンチを設定し、遺構・遺物の確認を行った。調査の結果、中世以前の遺構・遺物は確認されなかった。

6 まとめ

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。(山元)



第46図 調査地位図 (1/5,000)

34. 林町中林地区

- 1 所在地 高松市林町
- 2 調査期間 令和4年10月27日
- 3 調査担当者 梶原 慎司
- 4 調査の原因 宅地造成工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「空港跡地遺跡」に隣接する。調査では、2本のトレンチを設定した。調査の結果、現地表面下約40～50cmの深さで明黄橙色細粒砂～シルト層の地山が認められた。また、対象地中央では谷状地形に落ち込んだ中世の遺物包含層が認められた。包含層の下層からは弥生時代の溝状遺構を複数検出した。

溝状遺構は東西方向に延び、埋土は黒褐～褐灰色シルト層である。西側に隣接する空港跡地遺跡では、弥生時代後期初頭の溝状遺構が検出されており、本調査区の溝状遺構に接続する可能性が高い。

調査区南側では、円形状の土坑を検出した。25cm掘削したが湧水が著しかったため掘削を止めた。埋土から中世の土師質土器が出土しており、土坑の形状から井戸跡の可能性が高い。

6 まとめ

調査の結果、埋蔵文化財の包蔵状況を確認した。そのため、対象地を周知の埋蔵文化財包蔵地「空港跡地遺跡」として追加登録した。(梶原)



第47図 調査地位図 (1/5,000)

35. 多肥上町北原地区

- 1 所在地 高松市多肥上町
- 2 調査期間 令和4年11月8日～10日
- 3 調査担当者 梶原 慎司
- 4 調査の原因 新駅整備事業
- 5 調査の概要

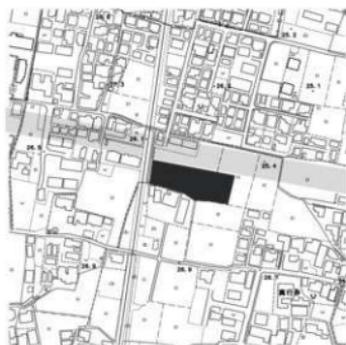
対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「多肥北原西遺跡」に隣接する。調査では、9本のトレンチを設定した。調査の結果、現地表面下約20～40 cmの深さで褐灰色シルト層が認められた。褐灰色シルト層は古代の遺物を包含する包含層で、場所によって遺物が密集している。

褐灰色シルト層上面は古代以降の遺構面で、古代の可能性のある溝状遺構を1条、土坑を複数検出した。溝状遺構は南北方向に延びる。幅約80 cm、深さ約16 cmで、埋土は黒褐色シルト層である。

褐灰色シルト層の下層にある灰白色シルト層上面で遺構検出を行ったが、断ち割り箇所や周辺の遺跡では遺構は確認されていない。

6 まとめ

調査の結果、埋蔵文化財の包蔵状況を確認した。そのため、対象地を周知の埋蔵文化財包蔵地「多肥北原西遺跡」として追加登録した。(梶原)



第48図 調査地位図(1/5,000)

第2章 重要遺跡確認調査（令和3年12月～令和4年11月）

36. 三谷石舟古墳

- 1 所在地 高松市三谷町
2 調査期間 令和3年11月9日～12月1日
3 調査担当者 品川 愛
4 調査の原因 重要遺跡確認調査
5 調査の概要

a 経緯・経過

古墳の盛土が池に流入しているとの報告を受け、流入土の堆積状況を明らかにするために確認調査を実施した。

b 調査成果

1. 古墳周囲の堆積状況

古墳周囲に3本のトレンチを設定して調査を実施した（第51図）。各トレンチで地表下2～5cm程度に黒色土がほぼ全体的に確認され、黒色土の下には固く締まった黄橙色粘土～極粗砂層（第52図の網かけ部分）が確認された。

黒色土からは古墳の構築材とみられる安山岩板石や土器片、須恵器、現代のビニール袋等が出土した。このうち、時期が分かるものを第50図に示した。1は土師器壺の口縁部、2は須恵器平瓶である。時期は、1は古墳時代前期、2は古代（TK217並行期）と考えられる。

黄橙色シルト～極粗砂層からは遺物は出土しておらず、黄橙色シルト～極粗砂層は地山と考えられる。

2. 遺構

2トレンチの地山層（黄橙色粘土～極粗砂層）上面で溝を検出した。溝は幅1.7m以上、深さは90cm程度である。溝の埋土からは板石が数点出土しており、古墳築造以降に埋没したと推測される。なお、1・3トレンチでは同様の溝は検出されていないことから古墳の周溝である可能性は低い。

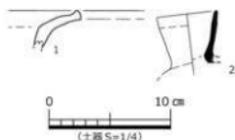
また、今回の調査区外ではあるが、古墳の北西付近では箱式石棺とみられる石組遺構が地表に露出していた（写真9）。遺構の南半部は土に覆われているため全体形は明らかではないが、確認できる範囲では、幅40～50cm程度の安山岩板石が南北方向に5枚並び、遺構の北隅では、側石が観察されたことから、小規模な石棺と考えられる。

6 まとめ

古墳周辺の堆積状況から、地表から2～5cmの範囲に堆積する黒色土が古墳からの流入土である可能性が高く、将来的に古墳からの土砂の流入を防ぐ措置を講じる必要があると考えられる。（品川）



第49図 調査地位位置図 (1/5,000)



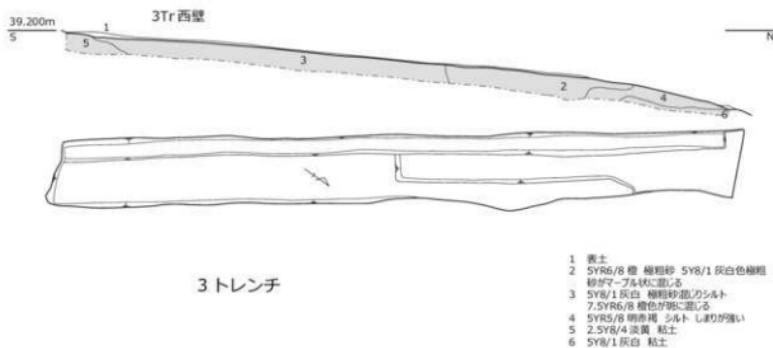
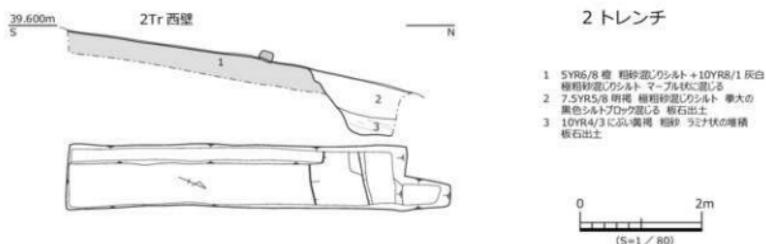
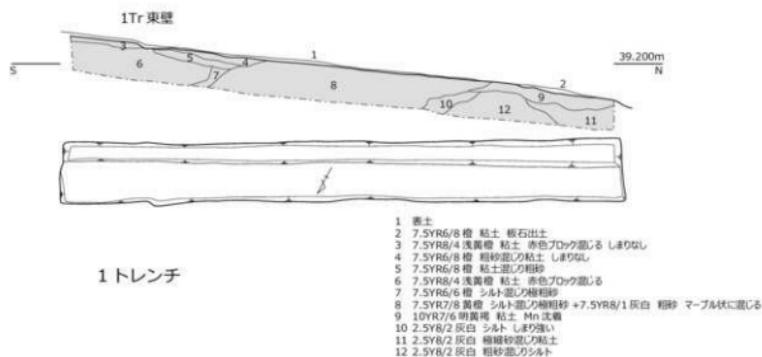
第50図 遺物実測図 (1/4)



写真9 石棺



第 51 図 填丘測量図 (1/600)



第 52 図 トレンチ平面図・断面図 (1/80)

しせきさぬきこくぶんじあつ

37. 史跡讃岐国分尼寺跡

- 1 所在地 高松市国分寺町新居
- 2 調査期間 令和3年12月6日～令和4年2月24日
- 3 調査担当者 香川 将慶
- 4 調査の原因 重要遺跡確認調査
- 5 調査の概要

a 経緯・経過

今回の調査では第1調査区と第2調査区の2か所を設定し、寺域の区画施設の構造等を解明するために実施した。

b 調査成果

【基本層序】

第1調査区は東側と西側で地山の検出面に高低差があり、おおよそ西から東に傾斜している。1-SD 4Bの断面を見ると耕作土以下に第2～5層が堆積する。この層は近世から近代の堆積層と考えられる。第6～9層は中世から近世の堆積層である。これらの下層で第12層の地山が確認でき、古代の遺構が検出される。

第2調査区は調査区中央で段差があり、その西側は耕作土以下に第2層が部分的に確認され、第4層の地山を検出した(2-SD 26断面)。段差より東側では耕作土以下で近世の第2層、中世の第3層以下に地山を確認でき、古代から近世の遺構を確認できる。

【遺構及び遺物】

今回の調査では両調査区合わせて溝10条、ピット44基を検出した。

第1調査区は東西約22.5m×南北約10mで設定した。溝8条、ピット20基を検出した。そのうち、讃岐国分尼寺の区画施設に相当すると考えられる遺構はSD 4である。SD 4は南北軸の溝で長さ約10m、幅約1.2～1.7m、深さ約30～50cmである。埋土はA断面を見ると3層の堆積層を確認した。いずれの堆積層も地山由来の礫を含んでいる。SD4はSP7・8・18に切られている。埋土から瓦や土師質土器等が出土した。これまでの調査成果や堆積層の年代から、平安時代後半から中世の間に埋没したと推測される。また、SD4の周辺には築地堀等の他の区画施設に関する構造物は検出できなかった。

古代に位置づけられる遺構はSP15・16を除くピットである。SP2を部分的に掘削した結果、直径約30cm、深さ約40cmである。埋土から土師器又は土師質土器が出土した。他のピットもSP2と埋土が類似し、中世の堆積層(7～9層)以下で検出されたことから中世以前の遺構と考えられる。SP22～25等、一定の間隔でピットが並ぶ状況も確認できることから掘立柱建物跡や柵列跡の可能性がある。

出土遺物は、1はSP2から出土した須恵器の杯蓋である。2はSD4から出土した須恵器のすり鉢である。3は軒平瓦(KB202)である。4・5は1-SD4B断面第2層から出土し、4は磁器の鉢で、5は陶器の壺である。6は1-SD4B断面第4層から出土した白磁の碗である。

第2調査区は東西約34m×南北約2mで設定した。溝2条、ピット24基を検出した。讃岐国分尼寺の区画施設に相当する遺構はSD10である。この溝は第1調査区で検出したSD4と埋土の特徴や主軸が近似し、同一遺構と考えられる。SD10はSP8・9に切られている。埋土から瓦や土師質土器等が出土した。これまでの調査成果や堆積層の年代から平安時代後半から中世の間に埋没したと推測される。

第2調査区で検出したピットは中世の第3層以下で検出し、埋土の特徴が第3層と近似することから中世の遺構と推測される。

6 まとめ

今回の調査で寺域を区画する施設は第1調査区のSD4、第2調査区のSD10であることが判明した。これらの溝は令和2年度の調査(第15次調査・SD1)と昭和57年度の調査(第2次調査)で確認した溝と同一線上に位置している。また、各調査区で築地堀等の区画施設を確認できていないことから、寺域西側の区画施設はこれらの溝であると考えられる。また、金堂跡の中軸線と検出した溝を基準に讃岐国分尼寺の範囲が凡そ1町半になることから、一連の調査で検出した溝が西側の区画施設に相当すると考えられる。また、第1調査区では掘立柱建物跡や柵列跡と推測される遺構を確認しており、これらの遺構が讃岐国分尼寺の運営施設となる可能性が示唆される。

また、第2調査区で検出したSD26は平成20年度調査(第9次調査)で検出したSD1が延伸する場合、讃岐国分尼寺の範囲拡張に伴う区画施設等に相当する可能性があるため、今後の調査で明らかにする必要がある。(香川)

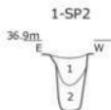
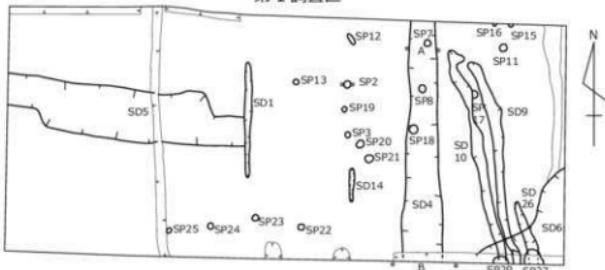


第53図 調査地位置図(1/3,000)

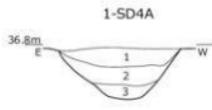
第2調査区



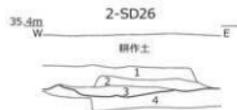
第1調査区



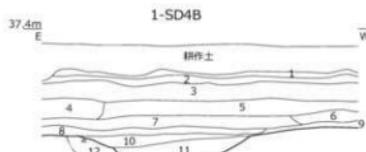
1. 10YR3/3暗褐 細砂
2. 10YR4/2灰黄褐 細砂



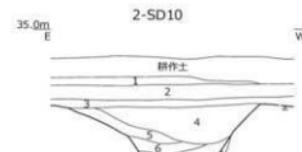
1. 10YR4/2灰黄褐 細砂 地山由来の粗砂
2. 10YR5/3C灰黄褐 細砂～中粒砂 地山由来の線を多量に含む
3. 10YR4/3C灰黄褐 細砂～中粒砂 地山由来の線を多量に含む



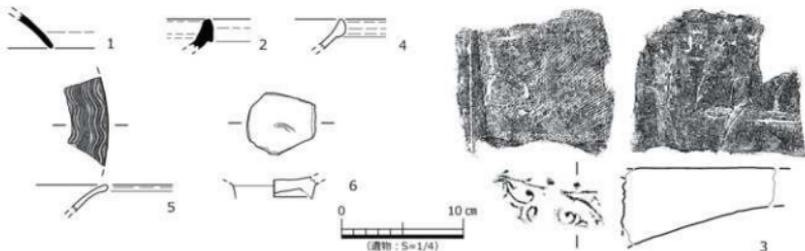
1. 10YR4/4褐 細砂～中粒砂
2. 10YR4/1灰褐 細砂
3. 10YR3/1黄灰 粘土～シルト(SD26埋土)
4. 2.5Y4/1黄灰 中粒砂シルト粘土(部分的に粗砂～細粗砂が混入)



1. 5YR4/4C灰赤褐 中粒砂シルト(粘土)
2. 10YR4/4褐 細砂
3. 10YR4/3C灰黄褐 粗砂シルト中粒砂～細砂 10YR5/6黄褐 径0.5～2cmのDy30%含む
4. 2.5Y5/2暗灰黄 シルトまじり暗粗砂 織物 土跡跡 SD4 1
5. 10YR4/2灰黄褐 細砂 マンガン含む
6. 10YR5/2灰黄褐 中粒砂シルト粗砂 マンガン含む
7. 10YR5/3C灰黄褐 粗砂シルト粗砂～中粒砂
8. 10YR4/2灰黄褐 粗砂シルト粗砂～中粒砂
9. 10YR4/3C灰黄褐 粗砂シルト粗砂～中粒砂
10. 10YR3/3暗褐 粗砂シルト粗砂(SD4埋土)
11. 10YR3/2黄褐 粗砂シルト粗砂～細砂(SD4埋土)
12. 2.5Y5/3黄褐 中粒砂～粗砂硬質(地山)



1. 10YR4/6褐 粗砂シルト粗砂
2. 2.5Y4/1黄灰 粗砂まじり粗砂～中粒砂
3. 10YR3/2黄褐 粗砂シルト粗砂～暗粗砂
4. 10YR3/3暗褐 粗砂シルト粗砂(マンガン含む)
5. 2.5Y5/2暗灰黄 粗砂まじり粗砂～粗砂 20%地山プロック含む
6. 10YR4/2灰黄褐 粗砂まじり粗砂～暗粗砂
7. 2.5Y4/1黄灰 粗砂まじりシルト～粗砂
8. 2.5Y5/3黄褐 シルトシルトの中粒砂～暗粗砂(織物跡) マンガン跡 地山



第54図 調査区平面図・断面図(1/200・1/40)、遺物実測図(1/4)

38. 史跡高松城跡及び名勝披雲閣庭園

- 1 所在地 高松市玉藻町
- 2 調査期間 令和4年8月18日～9月15日
- 3 調査担当者 高上拓・佐藤容・中西克也
- 4 調査の原因 披雲閣大書院耐震補強工事に伴う確認調査
- 5 調査の概要

a 経緯・経過

今回の調査は、披雲閣大書院耐震補強工事の実施設計に伴い、周辺の遺構状況を確認するために実施した。

b 調査成果

大書院の北東部にトレンチ1、西側にトレンチ2・3を設定した。

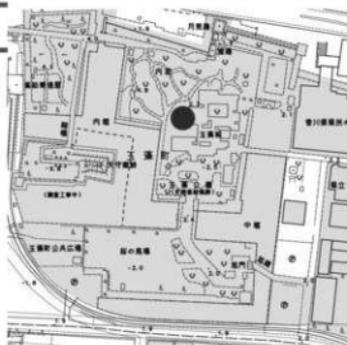
トレンチ1では、表土の下(現地表面から約4cm)で南北方向の長方形の遺構を検出した。遺構の深さは約8cmで、埋土から陶器片等が出土し、時代は近世と考えられる。当該地は近世御殿が建っていた場所であり、これの関連遺構である可能性が考えられるが詳細は不明である。

トレンチ2では、表土の下でピット状の不明遺構を確認した。遺物は陶器片等が出土し、近世の遺構と考えられる。遺構面の土層は1トレンチの遺構面と類似している。

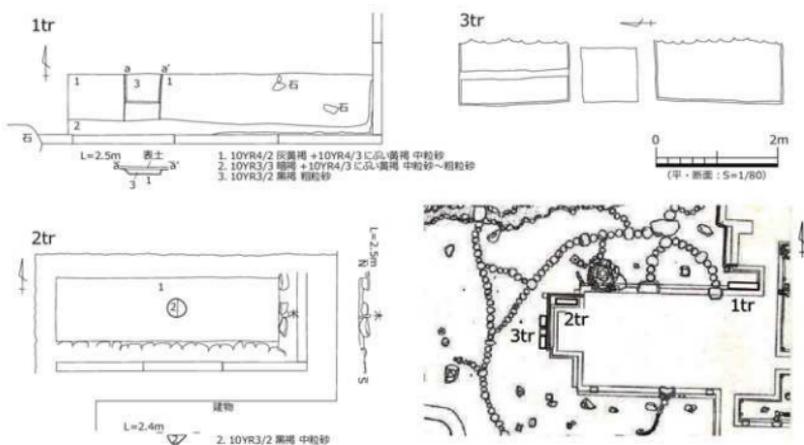
トレンチ3では、表土下でトレンチ1・2と同質の土層を確認し、近代披雲閣建築に伴うと考えられる配管が見つかった。配管の下までは掘削していないので掘り方の有無は不明である。

6 まとめ

表土下では3つのトレンチで同質の層を確認した。トレンチ1・2では近世遺構を検出し、トレンチ3では近代披雲閣に伴う配管を確認した。よって遺構面は近世～近代の時期と考えられる。検出した遺構は、近世御殿に関連する可能性がある。(佐藤)



第55図 調査地位位置図 (1/5,000)



第56図 トレンチ平面図・断面図 (1/80)、トレンチ配置図

ふりがな	たがまつしないいせきはつくちようさがいほう								
書名	高松市内遺跡発掘調査概報								
副書名	令和4年度高松市内遺跡発掘調査事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書								
シリーズ名	高松市埋蔵文化財調査報告								
シリーズ番号	第 243 集								
編著者名	船築 紀子・山元 敏裕・高上 拓・香川 将慶・梶原 慎司・品川 愛・佐藤 容								
編集機関	高松市教育委員会								
所在地	〒760-8571 香川県高松市番町一丁目8番15号 Tel.087(839)2660								
発行年月日	令和5年3月31日								
所収遺跡名	調査地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 /事業対 象面積	調査後の措置	
		市町村	遺跡 番号						
1	じょうりょうと 桑里跡	香南町 横井	37201	50017	34° 14'41"	134° 00'41"	R3.12.9 ~ 12.14	159 / 4000 m	包蔵状況確認されず
2	じょうりょうと 桑里跡	香南町 田佐	37201	50017	34° 14'22"	134° 01'12"	R3.11.18・ 12.20 ~ 12.21	78 / 706 m	包蔵状況確認されず
3	たひかみまちひつつかちく 多肥上町平塚地区	多肥上町	37201	10958	34° 17'40"	134° 02'56"	R3.12.22	24 / 784 m	包蔵地確認 追加登録「多肥 平塚遺跡」
4	かほはれいしよあけぼのく 上林町竹部地区	上林町	37201	10852	34° 17'23"	134° 04'29"	R4.1.27 ~ 1.28	145 / 1756 m	包蔵地確認 追加登録「上林 遺跡」
5	たひかみまほまほほのく 多肥上町松林地区	多肥上町	37201	10805	34° 17'36"	134° 03'20"	R4.2.17	60 / 202 m	包蔵地確認 追加登録「多肥 松林遺跡」
6	おまたかみまほまほのく 太田上町今原地区	太田上町	37201		34° 17'43"	134° 02'26"	R4.3.3 ~ 3.4	65 / 800 m	包蔵地確認されず
7	おびかほじよあたく 小比賀家住宅	御歌町	37201	10180	34° 18'33"	133° 59'22"	R4.3.10 ~ 3.11	2 m	
8	たひかみまほまほのく 多肥上町松林地区	多肥上町	37201	10821	34° 17'44"	134° 03'17"	R4.3.17	43 / 586 m	包蔵地確認 追加登録「松林 遺跡」
9	ほりいしよかほのほのく 林町亀の町地区	林町	37201	10629	34° 17'50"	134° 04'38"	R4.3.14 ~ 3.18	190 / 4803 m	包蔵地確認 追加登録「空濤 跡地遺跡」
10	きたちようおほらちちく 木太町小原地区	木太町	37201	11017	34° 18'51"	134° 04'21"	R4.4.6 ~ 4.7	130 / 1170 m	包蔵地確認 追加登録「木太 小原遺跡」
11	たひかみまちあかりちく 多肥上町宮尻地区	多肥上町	37201		34° 17'35"	134° 03'25"	R4.4.11	9 / 10 m	包蔵地確認されず
12	じょうりょうと 桑里跡	香南町 吉光	37201	50017	34° 15'06"	134° 00'33"	R4.4.15	24 / 98 m	包蔵状況確認されず
13	さきたはいじ・さきたはいじ・か 坂田廃寺・坂田廃寺下 部・たけまき・たけまき・いしなまよし 屋遺跡・坂田寺南築跡	西春日町	37201	10474・ 10960・ 10961	34° 18'49"	134° 01'14"	R4.4.28	39 / 406 m	包蔵状況確認
14	まなみちちうしつちく 松並町橋地区	松並町	37201		34° 18'49"	134° 01'26"	R4.5.17 ~ 5.18	118 / 1960 m	包蔵地確認されず
15	かわしまほんまなかつちく 川島本町中津地区	川島本町	37201	11014	34° 16'35"	134° 05'09"	R4.5.24	5 / 1000 m	包蔵地確認 追加登録「川島 中津遺跡」
16	こくぶんじちようあけいししがはなち 国分寺町福家石ヶ岡地 区	国分寺町 福家	37201		34° 16'17"	133° 58'44"	R4.6.15 ~ 6.16	110 / 1554 m	包蔵地確認されず
17	いれのみやちちうちちく 一宮町古美地区	一宮町	37201	10802	34° 17'11"	134° 01'43"	R4.6.29	26 / 502 m	包蔵地確認 追加登録「旧南 海道跡」
18	こくぶんじちようこくぶんちく 国分寺町国分地区	国分寺町 国分	37201	70001	34° 18'14"	133° 56'36"	R4.6.23 ~ 7.1	56 / 405 m	包蔵地確認 追加登録「讃岐 国分寺跡」

所収遺跡名	調査地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 /事業対 象面積	調査後の措置	
		市町村	遺跡 番号						
19	くろふねのうらぶちのめし 国分寺町新居東川 ちく地区	国分寺町 新居	37201		34° 18'39"	133° 57'46"	R4.7.25 ~ 7.26	83 / 665 m	包蔵地確認されず
20	えんげちようちちちち 円座町道下地区	円座町	37201	10802	34° 17'30"	133° 59'53"	R4.8.1	65 / 698 m	包蔵地確認 追加登録「旧南 海道跡」
21	はやしちようちちちち 林町平塚地区	林町	37201		34° 18'26"	134° 03'53"	R4.8.4	50 / 1579 m	包蔵地確認されず
22	はやしちようちちちち 林町平塚地区	林町	37201		34° 18'26"	134° 03'55"	R4.8.5	50 / 1327 m	包蔵地確認されず
23	はくせんじんじやま 白山神社古墳	木太町	37201	10615	34° 19'12"	134° 04'30"	R4.8.8	1 / 1 m	包蔵状況確認されず
24	おだいでにいせき 小田池西遺跡	香南町 池内	37201	50024	34° 15'14"	134° 00'05"	R4.8.8	27 / 453 m	包蔵状況確認されず
25	じやうせ 糸里跡	香南町 由佐	37201	50017	34° 14'57"	134° 00'51"	R4.9.7	22 / 400 m	包蔵状況確認されず
26	あやうざんじやま 鞍王山極楽寺	香川町 東谷	37201	40016	34° 12'23"	134° 04'00"	R4.9.8	0.7 / 4 m	包蔵状況確認されず
27	ろくじやうちちちち 六条町竜の町地区	六条町	37201		34° 17'48"	134° 17'45"	R4.9.8 ~ 9.9	50 / 1805 m	包蔵地確認されず
28	きたちようちちちち 木太町小原地区	木太町	37201	11017	34° 18'52"	134° 04'21"	R4.9.13	35 / 1630 m	包蔵地確認 追加登録「木太 小原遺跡」
29	えんげちようちちちち 円座町道下地区	円座町	37201		34° 17'30"	134° 00'29"	R4.9.14 ~ 9.16	287 / 4997 m	包蔵地確認 新規登録「道下 遺跡」
30	みたにじやうせ 三谷城跡	三谷町	37201	10695	34° 16'03"	134° 04'23"	R4.9.21 ~ 9.22	15 / 923 m	包蔵状況確認されず
31	ぶしやうちちちちち 仏生山町鞍鞍口地区	仏生山町	37201	10971	34° 16'59"	134° 02'31"	R4.9.29 ~ 9.30	89 / 1834 m	包蔵地確認 追加登録「萩原・ 一本木遺跡」
32	じやうせ 糸里跡	香南町 由佐	37201	50017	34° 14'17"	134° 01'19"	R4.10.3	15 / 272 m	包蔵状況確認されず
33	たひかみまきちちちち 多肥上町北原地区	多肥上町	37201		34° 17'42"	134° 02'42"	R4.10.25	24 / 630 m	包蔵地確認されず
34	はやしちようちちちち 林町中林地区	林町	37201	10629	34° 17'35"	134° 04'19"	R4.10.27	65 / 1080 m	包蔵地確認 追加登録「空港 跡地遺跡」
35	たひかみまきちちちち 多肥上町北原地区	多肥上町	37201	10978	34° 17'41"	134° 02'44"	R4.11.8 ~ 11.10	217 / 2710 m	包蔵地確認 追加登録「多肥 北原西遺跡」
36	みたにじやうせ 三谷石舟古墳	三谷町	37201	10683	34° 16'10"	134° 04'29"	R3.11.9 ~ 12.1	26 m	古墳周辺の堆積状況確認
37	しせきさぬまきくぶんじ 史跡讃岐国分尼寺跡	国分寺町 新居	37201	70050	34° 18'36"	133° 57'42"	R3.12.6 ~ R4.2.24	300 m	寺域等確認
38	しせきたかまつじやうせ 史跡高松城跡及び名勝 披雲閣庭園	玉藻町	37201	10259	34° 21'02"	134° 03'05"	R4.8.18 ~ 9.15	13 m	包蔵状況確認

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
1 じょうりあと 条里跡	条里跡	-	-	-
2 じょうりあと 条里跡	条里跡	近世以降	溝、ピット	土師質土器・陶磁器 ビニール袋 2袋
3 たひかみまちつらつちく 多肥上町平塚地区	集落跡	古代	旧流路、溝状遺構	土師器・須恵器・瓦 ビニール袋 1袋
4 かみやしちようたけへらく 上林町竹部地区	集落跡	弥生・近世・近代	溝状遺構、不明遺構、 土坑、溝	-
5 たひかみまちまつばやしちく 多肥上町松林地区	集落跡	弥生・中世	旧河道、ピット、溝	弥生土器・土師器・石器 ビニール袋 3袋
6 おおたかみちいまはらく 太田上町今原地区	-	不明	ピット	-
7 おびかけじゅうたく 小比賀家住宅	庭園	近世	護岸の石組み	瓦・土師器 ビニール袋 1袋
8 たひかみまちまつばやしちく 多肥上町松林地区	集落跡	弥生・古代	ピット、土坑	弥生土器・土師器・須恵器・陶 磁器等 ビニール袋 7袋
9 はやしちようかめのみまちく 林町亀の町地区	集落跡	弥生～古代	溝、ピット、大型溝?	須恵器・土師器・石器 ビニール袋 1袋
10 さたちようおはらく 木太町小原地区	集落跡	弥生～近世	溝、ピット、土坑	土師器・須恵器 ビニール袋 1袋
11 たひかみまちみやうちちく 多肥上町宮尻地区	-	-	-	-
12 じょうりあと 条里跡	条里跡	-	-	-
13 さかたはいじ・さかたはいじかそう 坂田廃寺・坂田廃寺下層 いせきさかたはいじのみなみよせき 遺跡・坂田廃寺南斎跡	社寺跡 集落跡 生産遺跡	弥生・古代	ピット、溝、土坑、瓦の 集積遺構	弥生土器・瓦 コンテナ 2箱
14 まつなみちようはしづめちく 松並町橋詰地区	-	-	-	-
15 かわけしまほんまちなかつちく 川島本町中津地区	集落跡	古代	溝	-
16 こくぶんじちようあけいしげはちちく 国分寺町福家石ヶ鼻地区	-	不明	溝、石組	近世瓦・陶磁器・拓器・土師器・ 須恵器 ビニール袋 4袋
17 いちのみやちようこみちく 一宮町古美地区	道?	古代・近世	溝	近世瓦・陶磁器・陶器・土師器・ 須恵器 ビニール袋 3袋
18 こくぶんじちようこくぶちく 国分寺町国分地区	社寺跡	古代	溝、ピット、性格不明遺 構	瓦 コンテナ 2箱
19 こくぶんじちようにいしがわにちちく 国分寺町新居東川西地区	-	中世	ピット、性格不明遺構	須恵器・土師質土器・古代瓦・ 白磁 ビニール袋 8袋
20 えんざちようみちしたちく 円座町道下地区	道	不明	溝状遺構、ピット	-

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
21 はやしちようひらつかちく 林可平塚地区	-	-	不明遺構	-
22 はやしちようひらつかちく 林可平塚地区	-	-	-	-
23 はくさんじんこふん 白山神社古墳	古墳	古墳	-	土師器・須恵器・陶器等 ビニール袋2袋
24 おだいけにしいせき 小田地西遺跡	-	-	-	-
25 じょうりあと 桑里跡	-	-	-	-
26 きおうざんごらくじ 岐王山極楽寺	-	-	-	-
27 ゑくじょうちようかめのみちちく 六条町亀の町地区	-	不明	土坑、溝	-
28 きたちようおほらちく 木太町小原地区	集落跡	弥生～古代	溝、ピット	土師器・須恵器 ビニール袋2袋
29 えんざちようみちしたちく 円座町道下地区	集落跡	古代～近世	溝、ピット、土坑、井戸?	須恵器・土師質土器・陶磁器・ 瓦 ビニール袋7袋
30 みたにじょうあと 三谷城跡	城館跡	近世～近代	石垣で圍繞された造成区 画	陶磁器・土師器・瓦 ビニール袋5袋
31 ぶっしょうざんちようどのぐちちく 仏生山町鶴殿口地区	集落跡	古墳～中世	竪穴建物、ピット	須恵器・土師器 ビニール袋1袋
32 じょうりあと 桑里跡	-	-	-	-
33 たひかみまちきたはらちく 多肥上町北原地区	-	-	土坑、不定形遺構、 噴砂	-
34 はやしちようなかばやしちく 林町中林地地区	集落跡	弥生・中世	溝、土坑(井戸跡?)	土師質土器・陶磁器 コンテナ1箱
35 たひかみまちきたはらちく 多肥上町北原地区	集落跡	古代	溝、土坑	土師質土器・須恵器 コンテナ1箱
36 みたにしいふねこふん 三谷石舟古墳	古墳	古墳	溝、石組遺構	須恵器・土師器・瓦・陶磁器等 ビニール袋7袋
37 しせきさききこくぶんにじおと 史跡讃岐国分尼寺跡	社寺跡	古代～中世	溝、ピット	瓦類・土師器・須恵器・土師質 土器・陶磁器 コンテナ6箱
38 しせきたかまつじょうとちよびめいしよ 史跡高松城跡及び名勝 ひらんかてしけん 披露閣庭園	城館跡 庭園	近世～近代	不明遺構	瓦・陶磁器・土器 コンテナ2箱

高松市埋蔵文化財調査報告第 243 集

高松市内遺跡発掘調査概報

— 令和 4 年度国庫補助事業 —

令和 5 年 3 月 31 日 発行

編 集 / 発 行 高松市教育委員会

高松市番町一丁目 8 番 15 号

印 刷 有限会社 中央ファイリング

